

TOKYO SEITOKU

January.2023

# NOW

vol.  
53

東京成徳学園の“今”を発信する広報誌

特集

“トップが考えるグローバル教育の今”

“教育支援ボランティアによる地域貢献を目指して”



つながる学び、ひろがる未来。

学校法人 東京成徳学園

TOKYO SEITOKU



# TOKYO SEITOKU NOW

## 創立100周年に向けて



東京成徳学園 理事長  
木内 秀樹

新年おめでとうございます。学園は本年97年目を迎え創立100周年まであと3年となりました。「東京成徳ビジョン100」で示された姿を実現すべく取り組む所存です。ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 1. さまざまなリスクの出現

日本ではコロナの第8波が出現しているようですが、世界中の国々では、感染状況にかかわらずマスクなしで日常生活が行われている所も多くなりました。ワクチン接種が進んだことにより、罹患しても以前のような緊張感は薄れたように感じます。

しかし、コロナによるパンデミックがようやく抑え込めそうだと思っていたところに、現在では国際的な政治経済上のリスクを抱えることになりました。ロシアによるウクライナ侵攻により、核兵器使用に対する不安とエネルギーや食糧（小麦）のサプライチェーンの機能不全という問題に直面しています。日本にとっては、ロシアの影響は限定的かもしれませんが、これからの東アジア

の情勢によっては、日本も大きなリスクを抱えることになりそうです。

こうした課題の解決には、当事国はもちろんのこと日本にも立ち位置を明確にし解決への発信をすることが求められます。こうしたアクションは、主に政府の役割なのでしょうが、その源泉として世論を形成する国民の考え方こそ重要なのではないのでしょうか。議論を通じて解決策を探る努力が必要です。

### 2. 創立100周年に向けて

「東京成徳ビジョン100」で示された各校の将来像の実現に向けて、これからの3年が仕上げの期間になります。

建学の精神に根ざした人材育成については、一昨年策定された大学のブランド・ステートメントにわかりやすく表現されました。「多様性の中で共生し、新たな自分を発見するとともに、自らの信念をもって未来をデザインする人材を育成します。」これは中等教育で実践している「自分を深める学習」とも通じるところがあり、「個の確立」と「自分の生き方を模索」することの大切さを表現しています。

こうした方針のもと学生生徒の内的成長を促すとともに、グローバルスキルである「ICTの活用能力」と「英語コミュニケーション能力」の向上に力を入れて取り組んでいく所存です。



TOKYO SEITOKU

**NOW**

「TOKYO SEITOKU NOW」は  
1年に2回、東京成徳学園の情報を  
お届けする総合広報誌です。

## 01 巻頭言

## 03 特集1

トップが考えるグローバル教育の今

## 07 特集2

教育支援ボランティアによる地域貢献を目指して

## 11 TOPICS

11 国際学部／子ども学部／経営学部

12 応用心理学部／大学院

13 短期大学／中学・高等学校

14 深谷中学・高等学校／幼稚園

## 15 ひと『活躍する卒業生』

一般社団法人スポーツを止めるな  
理事・1252プロジェクトリーダー  
伊藤華英さん

## 17 クラブ活動報告

## 19 学園祭REPORT

## 20 Student's Voice

## 21 NEWS／ブランド・ステートメント

## 23 お問い合わせ先／学園後援会のご案内／ 読者アンケートのお願い

そのため、各校のICTインフラ充実のため先行投資を実施し、IT系大学との連携協定を進めています。また、英語コミュニケーション能力については、大学では国際学部を中核として他学部にもその成果を広げ、中等教育では専任のネイティブスピーカーの採用と留学制度の充実などを図っています。

また100周年事業として次の施設設備などの整備を検討します。

1. 東京成徳大学深谷高等学校の校舎建替
2. 東京成徳大学高等学校(高等部)の校舎建替
3. 埼玉県大原地区のグラウンド整備(5,600坪)
4. 校外施設「戸隠グリーン」の整備活用
5. 大学八千代キャンパス(38,000坪)の活用

上記校舎建替えについては、建築資材の高騰とネット環境など新しい教育の考え方を設備などに反映することを検討する必要があり、時期が多少ズレ込むことが予想されます。

「戸隠グリーン」については現在休館中ですが、上信越国立公園の特別2種内、標高1,200mに位置する自然豊かな環境にあり、スキー場にも近く1年中利用できるのも、機会を見て再開したいと考えています。この施設は、旧川中島バスのホテルとして経営され、現在の天皇陛下と秋篠宮が猪谷千春氏からスキー指導を受けた際に宿泊された由緒ある施設(旧館)です。

学園のシンボル・マーク



TOKYO SEITOKU

イエローは「活力」と「勇気」を表し、3本の柱は学生・生徒・園児、教職員、同窓生を象徴しています。ブルーは「理想」と「若さ」を表し、5本の柱は5つの教育目標を象徴しています。そして、8本の柱が一体となり、東京成徳学園とその学園に集う人々のヒューマニティーを作り上げる姿を表現しています。

# “ 特集1 トップが考えるグローバル教育の今 ”

国際情勢が刻々と変化し、日本にもさまざまな影響をもたらしています。グローバル社会を生きる上で必要なものとは、そして日本の教育はいかにあるべきか。財務省財務官や国際協力銀行総裁などを歴任されてきた渡辺博史さんをお招きし、本学園理事長 木内秀樹との対談を行いました。お二人は東京教育大学附属中学校・高等学校(現:筑波大学附属中学校・高等学校)を共に過ごした旧友であり、今でも親交があるほど親しい間柄です。当時の思い出話や、渡辺さんの留学経験からの学び、これからの教育とは…と、お話に花が咲きました。

中高一貫校での“考える”学びが  
今に活かされている

**木内** 我々が中学校で出会ってから60年になりますね。同じクラスで学んでいたのがついこの間のように感じられます。

**渡辺** 木内さんは柔道、私はテニス部に所属して『強く 正しく 朗らかに』という校訓のもとで過ごしたわけですが、担任の先生はことあるごとに「よく考えよう」と言って私たちを指導してくれていたことは今でも鮮明に覚えています。当時の学校は良くも悪くも詰め込み教育がスタンダードでしたから、今思えば「考えよう」というのは先端を行っている教育でした。

**木内** 各種行事も盛んで、時には先輩が来て議論したり、合宿であれこれとディスカッションしたり、コミュニケーションを通じてアウトプットする場が多かったことも有意義でした。

**渡辺** 小学校では答えが1つのものを学び、中学・高校は答えが複数あることを知り、大学では答えが与えられない問いに向き合い、そして社会人になると質問を自分たちで作っていく。成長とともに思考が能動的になっていく過程の基礎が中学・高校・大学に詰まっていたように思いますね。

**木内** その後、大学を経て私は民間企業に、渡辺さんは大蔵省に。大蔵省時代にはアメリカのアイビーリーグの1つ、名門私立大学であるブラウン大学に社会人留学もされていらっしゃいます。

**渡辺** ブラウン大学では大学院生用の寮に入りました。当然さまざまな国籍を持つ

人が集まり、常にコミュニケーションが行われていました。海外の大学は課題が多く、平日の夜は勉強に追われ、週末の夜がやっと息抜きの時間。みんなでピザなんかを食べながら語り合っ、土曜はキャンパス内で開催されているアメリカンフットボールなどのスポーツを見て過ごし、日曜の夜

はまた月曜提出の課題に取り掛かる…といった具合で、みんな必死になって勉強していました。

**木内** そういったお話は日本の学生にとって刺激となると同時に、教育を見直すきっかけにもなります。

**渡辺** まさにそうで、大学入学をゴールとして最低限の単位さえ取得すれば卒業できる環境と、毎日膨大な課題と向き合い、ディスカッションやグループワークで切磋琢磨する環境だったら、どちらが成長できるかは議論するまでもないでしょう。

また、アメリカの大学では習熟度が足りない学生や、授業だけでは内容についていけない留学生には補習の時間を設けてくれますし、専門のアドバイザーが相談に乗ってくれるなど、サポート体制もしっかり



## 渡辺 博史さん

して、日本の大学が参考にすべきところも多いと思います。

**木内** 当大学の国際学部では、入学から半年後に、約1年間の海外留学が必須となっています。とはいえ、コロナ禍や世界経済の影響で海外留学のハードルが上がっている事実もあります。留学が困難だったら、例えば文部科学省の認可を受けている海外の大学の日本校で学ぶという方法だってありますから、柔軟に考えてもいいのかなと思うのですが。

**渡辺** 海外の私立大学は当然学費も高額ですが、州立大学やコミュニティ・カレッジなどはまだ安価ですし、学生も名門大学の学生と遜色がないほどよく学んでいます。

どこで学ぶかも大切ですが、何を学んでどう活かすかを考えるなら選択肢にしてもいいのではないかと感じます。国や大学が、意欲のある学生を何かしらの形で支援することも望まれるように思います。

### 外国語教育に欠かせない 思考力、表現力

**木内** 日本では小学校での英語教育が必修となり、中・高でも世界標準の英語力育成が求められています。外国語教育、中でも英語力をいかに向上させていくべきか、意見をお聞かせください。

**渡辺** 英語は今や世界の国際語として認

識されていますから、日本人も覚悟を持って学ぶ必要があると感じています。

現代はオンライン学習のコンテンツも豊富ですし、加えて衛星放送等でも気軽に海外ニュースを視聴できます。ストリーミングサービスやDVDで海外の映画にアクセスでき、英語字幕を活用すれば勉強にもなりますから、こういった身近なところからアプローチしていくのも一つの方法です。

**木内** 手軽に英会話学習にアクセスできる現代の環境をもっと活用してほしいですね。

**渡辺** 発音に自信がなく、英会話に苦手意識を持たれがちですが、そもそもアメリカは国土が広大なので北部か南部かでも発音が異なるし、もっと言うところシカゴの英語、テキサスの英語、カリフォルニアの英語…と英語にも何種類もある。日本でも地方ごとに訛りがあるように、英語も発音だけを気にするのではなく、どンドン話していくことが必要でしょう。発音よりも、何を考えていて何を伝えたいかに比重を置いてほしいですね。

**木内** 何を伝えたいのか、要は会話の中身が重要ですし、自分の考えや国語の力といったことになりそうですね。

**渡辺** 外国語は、日常会話が一番難しいんですよ。ビジネスシーンでは数字やデータを伝えることが中心ですし、定番のフレーズをいくつか覚えたら、あとは場面ごとに展開するだけ。仕事仲間や取引先も「このことについて話すのだから」という予測ができるし、相互理解が必要だから耳を傾けてくれます。しかし、日常的な会話は相手が興味を持ってくれないとコミュニケーションになりませんし、親睦を深めるための英語、趣味や好きなことを伝えることが意外と難しい。あとは木内さんがおっしゃったように、会話の中身が必要で、その根本にあるのはやはり“考える力”。知識とともに思考力を高めていかないと、いくら早期から教育したからといって円滑なコミュニケーションは生まれにくいかもしれません。





東京成徳学園 理事長  
木内 秀樹

慶應義塾大学法学部卒。民間企業を経て、1985年に教員に。1990年東京成徳大学中学校長、1999年東京成徳大学高等学校長、2013年東京成徳学園理事長、東京成徳短期大学長に就任。元中央教育審議会専門委員、東京都私立学校審議会委員ほか。

**木内** よく言われることですが、相手の国や文化、風習を知ると同時に、自分の国に対してももっと理解を深めて、表現できるようになってほしいと思いますね。

**渡辺** 自分の国の説明ができること、自分のバックグラウンドを理解して表現できることはコミュニケーションのベースですから。それは最低限英語で話せるようになっておいていいでしょうね。

#### これからの グローバル社会、グローバル教育とは

**木内** ここからは社会、そして教育の在り方について伺っていきます。ズバリ、渡辺さんが考えるグローバル社会とは？

**渡辺** 人とモノとお金と情報が自由に動く社会だと考えています。この中で一番後れを取っているのが人ですね。昨今は諸外国の争い、移民問題やコロナ禍などでグローバル化に歯止めがかかっているのが現状であり、望ましいとは言えません。

**木内** 地球規模で考えながら地域の文化なども大切にしようということでグローバルとローカルを組み合わせた「グローカル」という言葉が生まれたりもしています。

**渡辺** 国内・国外という分類はもはやそれ自体がレガシーだと思います。数十年前なら、海の向こうの出来事には「そんなこともあるんだ」と傍観していたらよかったかもしれません。しかし、エネルギーの高騰、世界的なインフレの加速、サプライチェーンの混乱といったことが我々の生活にも影響している。国内・国外を分けたり、国内でも都市と地方だからと自分の世界の中だけに閉じているのは、グローバル社会に欠かせない人とモノとお金と情報が停滞してしまいます。

**木内** 世界情勢の全てを把握して持論を述べるまでは難しくても、主要なニュースは理解していなくては行けないですね。

**渡辺** 日本の新聞は海外の政治・経済に関するニュースも掲載していますよね。アメリカの中間選挙について、1面で報道することもある。これは海外ではありえないことで、例えばニューヨーク・タイムスやワシントン・ポストは著名なニュース・ペーパーですが、情報のほとんどが自国や地域のニュースです。触れられる国際情報に関して日本は十分豊かだと思うので、グローバルを身近に感じられる環境はあると思うんですね。

**木内** 当学園では、来たる2026年の学園創立100周年に向けて「『成徳』の精神を持つグローバル人材の育成」として、主体的に考え、判断し、行動する人間の育成に努めるという周知を行っています。日本全体のグローバル教育に関しては、どのようにお考えでしょうか。

**渡辺** 先ほどさまざまなものが自由に動く社会こそグローバル社会だと表現しましたが、教育に関しても同様です。例えば大学を例にすると、先生や学生の動きがもっと活発になってもいいかな、と個人的に思っています。というのも、これまでは入学した大学の授業を受け、単位を取るだけで完結していました。しかし日本は都市部に大学が集中しており、これは海外にはあまり見られない環境です。行き来しやすい立地なのだから、自分の大学から飛び出して興味・関心のあると感じる先生やその授業を受けられるような制度設計をして、それを単位として認定するようなことがあれば、もっと学びに意欲的になれるのではないのでしょうか。

**木内** 海外では教授が講堂を歩きまわって学生と対話しながら授

業を進めたり、学生同士で議論が白熱している様子もあると聞きますし、積極的に発表をする学生はもちろん、教授による指導のパフォーマンスも評価されると伺いました。

**渡辺** そうですね。私が留学していた時代から、教壇でひたすらボードに文字を書いているような授業よりも教授自身が移動して学生と会話するような授業が多かったです。教室内のあちこちから教授の声が聞こえるから脳が活性化して刺激となりますし、対話型だからいつ当てられるかわからないという緊張感を持って授業に臨めますね。

**木内** 日本人はそもそも積極的に挙手をするような学生が少ないですから、マインドチェンジをしていくことも必要かもしれない。

**渡辺** まさにそう。あとは先生側が積極的に手を挙げる学生を許容したり、発言を促すのもひとつ大切な要素です。

**木内** これからの教育に必要なものや軸にするべき教育観が見えてきた気がします。

**渡辺** 教育は、“こうである”と学生に植え付けるものではなく、何度も言いますが“考え方”を身に付けさせる場であってほしい。座学で講師が一方的に教え、覚えたかどうかの試験をするというこれまでの日本の教育には限界が来ていて、学生が考え、発言できる場にしてほしい。社会の変化が速い現代においては、“こうである”と言われ、その通りに覚えただけのことはすぐに使えなくなってしまいます。

**木内** 検索すればそこに答えが載っている。そんな世界ですからね。

**渡辺** そうです。考える力、判断する力を身に付けることに力点をおいてほしい。知識のいくつかを結合させることで新たなものを生み出すといった、イノベーションにつなげる思考法や視点は確実に力になります。

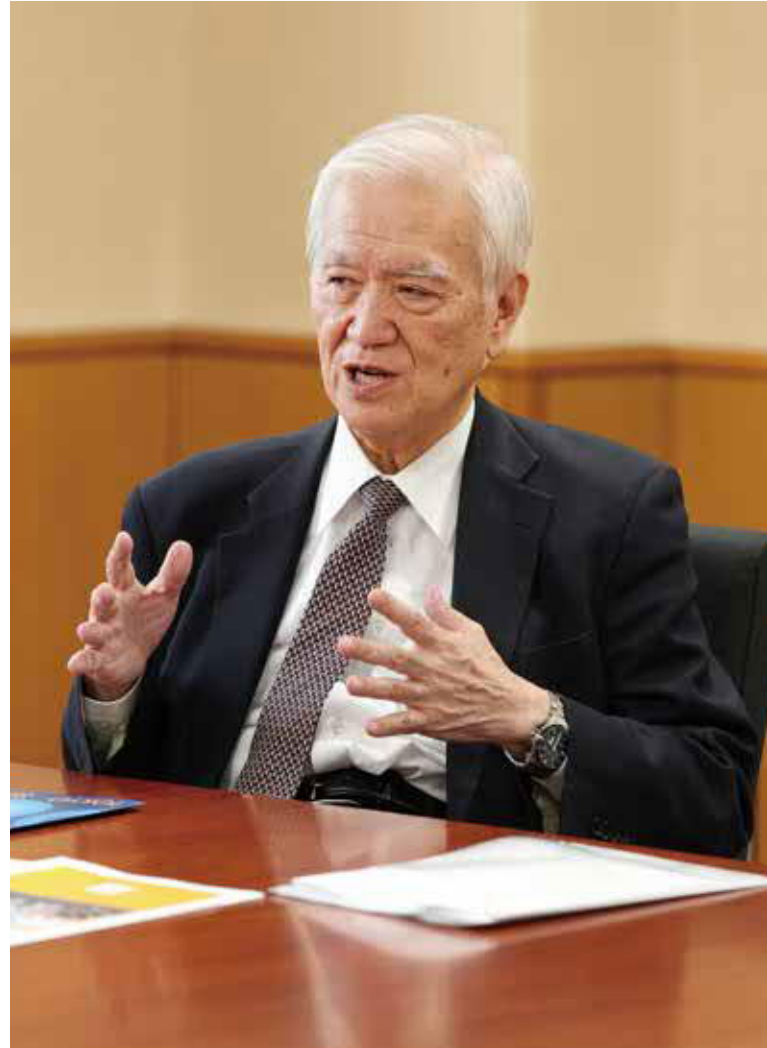
## 徳を成した人材こそ

### グローバル社会で評価される

**木内** 東京成徳学園の建学の精神は、『徳を成す人間の育成』です。渡辺さんに指摘いただいた、“国内・国外と分けて考えない方がいい”ということは前提としながら、日本に生きる私たちが次の時代に向けてどのような姿勢を持つべきか、そして「徳を成す」ことがグローバル社会においてどのような意味があるかについてもお話いただけますか。

**渡辺** 日本人は気質的に控えめで精神的に安定している寛容な人が多いと言われており、調和や社会の安定を維持するにあたっては優れた特性を持っています。清潔であることには世界で最も優れているでしょう。一方で、自分の意見を伝える、リーダーシップを発揮するといった面が弱いかもしれません。リーダーシップとは何かと考えた時に、自分の考えを押し付けるだけで、本人の行動が伴わないのはやはりリーダーシップではないと思うんです。

**木内** はい、もっと相互なものであり、時代や相手の状況を見通し、ビジョンを設定し、明確に説明ができること。それがリーダーシップであり、徳を成すことだと私も思います。徳を備えている人材は、グローバル社会において今後ますます必要とされ、評価されることになるのではないのでしょうか。今日はありがとうございました。



公益財団法人 国際通貨研究所 理事長  
渡辺 博史

1962年に東京教育大学附属中学校・高等学校(現・筑波大学附属中学校・高等学校)に入学。  
東京大学法学部卒業後、大蔵省(現・財務省)に入省。ブラウン大学経済学系大学院留学、国際金融情報センター出向、主税局税制第三課長、同第二課長、大臣官房秘書課長、大蔵大臣秘書官などを経て、国際局長、財務官などを歴任。退官後は一橋大学大学院商学研究所教授、国際協力銀行代表取締役総裁。2016年より公益財団法人国際通貨研究所理事長。

## “ 特集2 教育支援ボランティアによる地域貢献を目指して ”



東京成徳大学では、キャンパスの周辺地域でさまざまなボランティア活動を行い、社会とつながりながら学ぶ機会があります。今回は、東京都北区との連携・協力に関する包括協定に基づき、区内の小・中学校で教育支援ボランティアとして関わっている臨床心理学科の学生に、ボランティアのやりがいや得られた学びについて伺いました。学校心理学やスクールカウンセリングを専門とする田村節子教授の専門的な視点も加わり、有意義な座談会となりました。

### 特別支援学級などで学習支援のボランティアを実施

**田村先生** 3人は私のゼミに所属していて、学習障害のある児童・生徒の支援という共通のテーマで学びを深めています。また皆さんは、北区での学習支援ボランティアにも取り組んでいるので、その内容や活動を通して気づいたことなどを教えてください。

**平** 地域の小・中学校の授業支援を行う学生ボランティアの案内が大学に来ていることを知り、興味があったので参加しました。私は特別支援学級が設置されている中学校に行き、学級内の生徒への学習支援、授業補助など教育的なサポートを行っています。生徒の特性によっては授業を受けることに困難を示すこともあり、そんな時は一時的に別室に

移動して心を落ち着かせるのですが、そのような時もそばにいて見守ったり、話し相手になったりといったことをしています。

**齋藤** 私もボランティア先として中学校を選ばせていただき、特別支援学級の生徒と1対1で関わっているほか、1年生の学習支援も行っています。個別の支援、そして集団の中での支援と両方を体験できていることは貴重だと感じていますし、授業だけではなく休み時間を一緒に過ごしたり、何気ない会話をしたりする中で子どもたちの思いや不安な気持ちも感じ、支援に関する本質的な部分を発見することも多いなと感じています。





平 弥暖さん

応用心理学部  
臨床心理学科 3年



杉山 福太郎さん

応用心理学部  
臨床心理学科 3年



齋藤 鈴佳さん

応用心理学部  
臨床心理学科 3年



田村 節子先生

応用心理学部  
臨床心理学科 教授

主な担当授業

心理学的支援法（基礎）  
スクールカウンセリング入門  
学校心理学セミナー  
卒業研究

心理学 専門

学校心理学  
学校臨床

**杉山** 僕は小学校4年生に関わっています。実際に児童と接して支援する経験をしたと考えたことに加え、今の小学校ではどんな教育が行われているのかも知りたいと思ったのがきっかけです。学級にはさまざまな特性を持った子がいるので、問題の解き方が分からない児童の手助けや、集中できずに教室を飛び出してしまう児童を授業へ戻すよう促すといった授業支援を行っています。

**先生** 特別支援学級といっても、学習上・生活上の困難は一人ひとり異なります。また、通常学級でもインクルーシブ教育が行われ、合理的配慮のもとで授業が進んでいきますから、一人ひとりの特性を把握することが必要ですね。そんな中で、皆さんは授業以外でも子どもと寄り添い、心地よい距離感になるように工夫をされていますね。子どもたちと支援者の間に必要なのは何よりも信頼関係ですから、ささいな会話も大切にしているんですね。とても素晴らしいことだと思います。

児童生徒への個別のサポートと先生方との情報共有の大切さを実感

**先生** ボランティア活動から得た気づきなどはありますか？

**平** 1人の生徒に対しては良い対応だったとしても、それが他の生徒に同じ結果をもたらすとは限らないということが何度かありました。やはり生徒の性格や特性を理解した上で個別にアプローチを行うことが大事で、そうやってはじめて支援・サポートとなるのだと学びになりました。

**齋藤** 先生方ともコミュニケーションを取り、子どもたちに関する考え方や関わり方を知ることが重要であると感じるようになりました。現在も時間が許す限りですが、先生方との1つ1つの会話を大切にしています。地域には子どもたちを支援する専門職の方々もいますし、当然保護者との関わりも大切です。各方面と信頼関係を築いていくことで、子どもたちに関する情報を共有できる場面が増えたと感じています。

**杉山** 長く支援員をしていらっしゃる先生の言うことに対しては、子どもたちが素直に従っている様子もあるので、関わる時間の中で信頼関係を構築していくことがよりよい支援につながることを実感しています。

**先生** 個別支援の必要性やさまざまな専門職の人たちと連携する支援の大切さも感じたのですね。学生ボランティアが学校に行けるのは週に1日程度かもしれませんが、子どもがサポートしてくれる人を信頼するという関係性が構築できたら、次のボランティアの人にもその信頼が受け継がれていきますから、みんなが子どもたちとしっかり向きあっていることは必ずいい結果につながると思います。

学校や地域との連携で子どもたちの学びや支援の選択肢を広げる

**先生** ボランティア活動の中でうれしかったことなどはありますか？

**平** ボランティアに通い始めて何週間か経った頃、生徒の1人が「今週も来てくれたんだ!」「次はいつ来るの?」と聞いて

くれたことです。私のことを認知してただけでなく興味をもってくださるんだなと思って、充足感に包まれました。

**齋藤** 「部活動を見に来てほしい」と言ってくれたことはうれしかったですね。その生徒にとってはとても勇気のいる言葉だったと思いますし、実際に見にいくと周囲にサポートしてもらいながらも、がんばって活動している姿を見ることができて、ジーンとききましたね。

**杉山** やりがいが多い一方で、悩んでいることがあるので意見を聞かせてもらいたいです。ICT教育の推進で、小学校に1人1台タブレット端末が配布されています。通常の授業や調べもの学習などで活用している一方で、中にはタブレットで遊びはじめてしまったり、声掛けをすると廊下に出て遊びを続けてしまったりするような児童もいます。気持ちに寄り添いたいのですが、授業時間内に教室に戻さないと…と焦りも出てしまっ。学校は基本的に集団での行動で、とはいえ一人ひとりの個性に合わせた個別の援助も必要。両立が要求されていることは頭ではわかっていたものの、対応の難しさを実感している最中です。

**齋藤** 難しいね。それぞれの生徒さんにとって居心地のいい空間とは何だろう、どのような環境整備を行うことができるのかな?というのは、そのたびに迷うよね。

**先生** すごくいいところに気がついていますよね。杉山さんの言うように、本当は寄り添って時間をかけて支援できたらいいけれど、授業は当然時間が限られていて、先生側も授業の足並みをそろえたいから早く戻ってきてほしいと思って



しまう。ただ、「こうしなさい、こうじゃないとダメだよ」と強く指摘するほど、人間は反発、抵抗するんですよ。担任の先生の理解を得られるのが一番いいのですが、多忙なのも事実です。例えば窓口の先生、校長先生、教頭先生などに相談してみることも一つの方法かなと思います。

**平** 私のボランティア先の中学校は学校全体が協働して支援に携わってくださっていて、校長先生や副校長先生がよく見に来てくださいます。学校と学生ボランティアが結びつくことでよりよい支援になると思うので、今私たちが感じている葛藤も含め、良い方向に改善していくことで支援の力を広げられるのかなと思ったりもします。

**先生** 本当にそうですね。あと、例えば

学習障害、特に読字障害があると、明朝体を読むことが難しい傾向にあるといわれています。他にも赤色の字が見にくい、波線を見ると気分が悪くなるなど、本人の気持ちとは別に集中力を削いでしまう環境になってしまっている場合も少なくないんです。タブレットの文字、掲示板、教室内の環境を改めて見直して、学生側からも気づきを発信していくこともいいと思います。

**杉山** ありがとうございます。うまくいかなくて落ち込むこともあるけど、おいしいものでも食べて切り替えよう！と思ってがんばっています(笑)。

**先生** そうね。寝る前に反省の気持ちで1日を締めくくるとは精神的にもよくないといわれています。「あれができた」「これがよかった」と、いい振り返りをして明日を迎えてほしいな。また、人に「話す」ことは「手放す」ことにも通じるので、ぜひ誰かに話をしてほしいです。

**平** 学部やゼミの友達に相談するだけでも楽になるよね。同じ目標を持っている強みだなんて思います。

**杉山** うんうん。悩みを共有することで自分の負担が減るし、問題の解決方法やヒントを得られるのがうれしいよね。

#### ボランティアの芽を育て 後輩たちにも紡いでいきたい

**先生** ここまで話を聞いて、教員としても大学としても、ボランティア活動をバックアップしていきたいと改めて思いました。では最後に、皆さんの将来の目標と、ボランティアで得たものをどのように活かしていきたいか教えてください。

**平** 家族がスクールカウンセラーにお世話になった経験から、児童生徒や保護者の心のケアや援助に関わりたいと感じるようになりました。子どもと関わる経験が乏しければ相手の立場になって物事を考えたり共感したりすることもできないと思い、大学入ってから放課後児童クラブ(学童)でのアルバイトをして小学生と関わったり、今回のボランティアで中学生と接したりと、意識的に幅広い年齢の子どもと関わるようにしています。また、特別支援学級の担当ができたことで障害に対する理解も深められ、貴重な体験になりました。

**杉山** 母が小学校の支援員の仕事をしており、困難を抱えている児童に対する支援の大切さについてよく話を聞いていました。また、僕自身スクールカウンセラーの方に話を聞いてもらった経験があり、全ての児童が楽しく学校生活を送る支援のためにもスクールカウンセラーを目指すようになりました。児童をよく観察し、さまざまな情報を集め、個性を把握する。そして、その子にあった支援を行い、信頼関係の構築を進める。この過程で経験したことを自分の中でしっかりとかみしめて、将来につなげていきたいです。

**先生** 「助け上手は助けられ上手」という言葉があります。人から助けられるという経験をした人は、それを糧にして他者にも思いやりの行動をとることができる。2人はまさにそれを実践できると思いますよ。

**齋藤** 高校時代に石隈先生、田村先生の学校心理学関係の著書を読んだことがきっかけで東京成徳大学で学び、見

### 東京都北区への教育支援ボランティア派遣

東京都北区と東京成徳大学を設置する学校法人東京成徳学園で連携・協力に関する包括協定に基づき、教育支援ボランティアの学生を派遣しています。この包括協定は、北区と大学のそれぞれが持つ人的・知的・物的資源を活用し、地域課題の解決に活かし、住民福祉の向上や学術の発展などにつなげることを目的としています。本学の特性を活かした事業をはじめ、さまざまな分野において地域連携を推進しています。

童福祉現場で働きたいという目標ができたので、公認心理師、臨床心理士の資格を取得し、児童心理司として働くことができるように努力していきたいです。また、ボランティア活動に関する情報や私たちの経験を大学の後輩たちにも共有することで、ボランティアの体制や子どもたちに対する支援もつながっていくと思うので、そこにも貢献していきたいです。

**先生** そうですね。みんなに懂れてボランティアをしようと考えている後輩たちにもいい形でバトンタッチしていく必要があると感じました。ボランティア先の小・中学校の先生方からも「皆さんのボランティア活動はとても助かっている、

感謝している」「長く本校で活動してほしい」といった大変うれしいお声が私にも届いています。現代はさまざまな社会問題が複雑に絡み合っ、生きづらさを感じる人も多い世の中です。メンタルヘルスが注目を集めていますし、心理に関わる仕事はこれまで以上に求められています。ボランティアでも人を見る、表情から感じる、声を聞く、寄り添うといったことを実践しようとしてくれる皆さんなら、素晴らしいカウンセラーになってくれるだろうなという希望が湧いてきました。今日はいろいろ話してくれてありがとう。これからも大学の授業、ゼミ、ボランティアと、みんなが活躍していくことを応援しています。



## 東京成徳学園の地域連携

東京成徳では、大学だけでなく各校でも地域との連携に取り組み、地域貢献へとつながる活動をしています。ここではその一部をご紹介します。

### 国際学部



十条の商店街活性化プロジェクトに取り組む

国際学部「プロジェクト演習」の授業で、3年生が身の回りの課題に着目し、解決までのプロジェクトを企画立案し、実現に向け活動します。これまでに地元十条銀座商店街の活性化を課題として取り組み、商店街のお祭りの運営協力やアンケート調査に協力しました。

### 子ども学部



板橋区「CAP'Sわくフェスweek」乳幼児親子向けプログラムを担当

板橋区の「第38回こどもわくフェスタ2022」の「CAP'Sわくフェスweek」に、子ども学部「子どもの身体表現A」を受講する2年生が参加。「絵本を題材にした身体表現遊び」をテーマに、乳幼児親子向けプログラムを企画・実施しました。区内児童館数か所で手作りのペープサートや楽器演奏、手遊びなどを行い、参加親子と交流を深めました。

### 子ども学部・短大幼児教育科



大学・短大×北とびあコラボ企画 多目的ルームで子どもワークショップ

大学子ども学部と短大幼児教育科の学生が、3～6歳の親子（北区在住）対象のプログラムを企画し、2回にわたって実施しました。学生と一緒にからだをたくさん使ってあそび、いろいろな素材を用いながら親子で楽しむ内容で、学生たちは子どもたちが楽しむ姿に達成感を得たと同時に、保育者としての関わり方を学ぶ機会となりました。

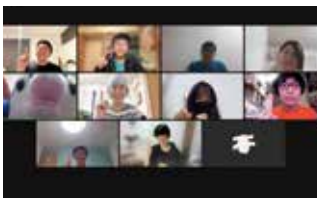
### 短大幼児教育科



短大サークル「子育て応援団ハートフルママ」、子育て中の乳幼児親子を応援

北区多様性社会推進課とコラボした学園祭でのパープルリボン活動紹介のほか、食育の一環に咀嚼力測定ゲーム体験や味育（MIKU）活動の紹介、子ども虐待防止を訴えるオレンジリボン普及活動、里親制度紹介など、子育て関連の幅広い活動の紹介と提案を行いながら、近隣地域の皆さまと活動しています。

### 東京成徳大学中学・高等学校



都内複数校の現役私立中高生とともにオンライン学校説明会を主催

中高生が主体となりゼロから作る学校説明会を主催する「学校PR部」に本校生徒会が参加。東京や神奈川の私立中高から集まった現役生が自ら説明会を企画し、運営しています。本校生徒たちも中学受験生が自分に適した学校選びをできるように、都内の他校生徒とともに活動しています。

### 東京成徳大学高等学校



地域の子どもたちを対象に開催するサッカー教室に参加

地域の小中学生や幼児を対象に本校の人工芝グラウンドなどで開催されるサッカー教室に、サッカー部生徒がアシスタントとして参加しています。年齢の近い高校生コーチのもと、参加の子どもたちは伸び伸びサッカーを楽しみながら、技術向上に励んでいます。

### 東京成徳大学深谷中学校



深谷市の子ども議会に生徒会長が副議長として参加

深谷市開催の子ども議会に、生徒会長が副議長として参加。市内小中学校から選出の子ども議員が議長として議会を進行し、子どもたちの質問に市長や各担当部長が回答します。将来を担う子どもたちが、まちづくりを考え、意見を発表する体験から行政や議会の理解を深めてもらい、子どもたちの純粋な意見を市政運営の参考とする目的があります。

### 東京成徳大学深谷高等学校



「渋沢栄一おしごとフェスタ2022」のボランティアに書道部が参加

書道部生徒が深谷市主催「渋沢栄一おしごとフェスタ2022」の書道体験のボランティアに参加しました。地元小学生が筆をとって栄一翁の時代の学びを体験するもので、筆の握りや運び方の練習、うちに漢字一文字を書き上げるまでの手伝いを行っています。書道部員にとっても貴重な経験となりました。

## 東京成徳大学 国際学部

### 1年生がアメリカ、オーストラリア、韓国に出発

国際学部は2019年4月の発足以来4年目を迎えましたが、教育カリキュラムの一環として1年次後期から2年次前期に実施する約1年間の海外留学プログラムの実施については、2020年当初から始まった新型コロナウイルスの世界的な流行に大きく左右されてきました。今年度は同感染症の世界的な流行はいまだに続いています。世界各国が一般的にPCR検査の免除や渡航制限を緩和したことにより、当初の予定どおり、8月から9月の間にアメリカ(Cascadia College, Green River College)、オーストラリア(Deakin University)及び韓国(慶熙大学、漢陽大学、建国大学)の各留学先に1年生を現地渡航させることができました。



国際学部長 芳賀 克彦

## 東京成徳大学 子ども学部



### ハロウィンのジャック・オー・ランタンを作りました

1年生主体の「基礎造形II」(後期)の中で、共同制作を体験してもらいました。今回のテーマは季節のイベント「ハロウィン」にちなんだ大きな「ジャック・オー・ランタン(お化けカボチャ)」で、5、6人から10人くらいのグループになって協力しながら材料を用意したり、組み立てたりして3クラス合わせて10個以上の大きなカボチャが完成し、ハロウィンの期間に3号館の1階に展示することになりました。幼児にとって、協力して大きな作品を作る経験は努力達成の実感や社会性の発達のきっかけになります。学生たちが授業を通し協力して造形表現の経験を楽しむことが、将来の子どもたちのための育ちの環境を作るモチーフや学びにつながることを期待しています。

准教授 藤田 寿伸

## 東京成徳大学 経営学部

### 英語教育を強化しました

経営学部では、本年度より1年生前期、2年生前期に英語の必修クラスを開設しました。これは、本学の「『成徳』の精神を持つグローバル人材の育成」に向けた取り組みですが、同時に学生の間で、英語への関心が高まってきたことへの対応でもあります。

近年世界的に若者の間で動画サイトへの投稿の人气が高まり、英語による発信にも積極的に取り組むケースが増えているようです。1年生後期、2年生後期の「ビジネスイングリッシュA、B」(選択)と合わせ、1年生から2年生にかけてシームレスに英語を学ぶことができるようになりました。英語とともに、ビジネスの最新の話題や企業の戦略などについても楽しく学べる一石二鳥のプログラムです。



准教授 芳野 まい

応用心理学部

## 東京成徳大学 臨床心理学科

### 3年ゼミ学生が学園祭に出展

コロナの影響がやや緩和され、3年ぶりに学外からの来訪も可能となった学園祭(第56回桐友祭、10/29~30)に、臨床心理学科塚田ゼミの3年生が出展しました。会場となった3号館2階教室には、入口に等身大の教員写真を含め学科教員の紹介と、心理学の授業でも学んだ興味深い心理現象のポスター説明。中に入ると心理学実験の体験コーナー、水晶玉占い、縁日店(輪投げほか)など、次々と来場者が絶えない様子。

2日とも天候に恵まれ、本学学生と教職員、保護者のみならず学外からも多くの参加を得まして好評でした。来年度以降もゼミ学生による主体的な展示企画があることを期待しています。



応用心理学部長・臨床心理学科長 一谷 幸男

応用心理学部

## 東京成徳大学 健康・スポーツ心理学科



### 学年交流イベント「ボッチャ」開催

学年を超えた学生同士の交流と親睦を深めることを目的に、第1回スポーツイベントを9月13日に北区桐ヶ丘体育館で開催しました。有志が集まった学生マネジメント・チームが検討採用した種目が東京パラリンピック正式種目の「ボッチャ」競技です。アイスブレイクで和やかな関係作りをしたあと、学年混合のチームを作り対抗試合が行われました。参加者同士で作戦を話し合い一喜一憂しながら白熱した試合が展開されました。「心の底から楽しんでいて学生同士だけでなく先生方とのコンタクトをたくさん取れてボッチャを企画して良かった」「1年生や自分、先生と協力して競技に参加できた」と感想があり、当初の目的が達成されました。

健康・スポーツ心理学科長 木幡 日出男

## 東京成徳大学大学院 心理学研究科

### 「実行機能」の研究へ取り組む

私は大学での教育と研究を本務としています。発達障害のある子どもが学びや人生を舵取りするのを支えるものとして、目標に向けて思考などを調整する力である実行機能に注目し、米国での研究留学を経て、評価と支援を研究してきました。思うようにまとめることができない焦りの中、博士課程に籍を置き、研究に向き合おうと考え、アセスメントや支援の研究と臨床にご指導いただける先生方のいる本学を選びました。時間の捻出は確かに大変ですが、進学は大正解でした。同じように仕事をしながら研究する仲間や先輩から刺激を受け、先生方からの質問やアドバイスで考えを整理し、実行機能の重要性について身をもって感じながら研究に取り組んでいます。



臨床心理学専攻 博士後期課程1年(埼玉大学教授) 名越 斉子

## 東京成徳短期大学

### 園で実践的に学びを深めています

コロナ禍でオンライン授業や学内での講義・演習授業を中心に学んできましたが、やっと感染対策をしながら園で実践的に学ぶ機会を設けられるようになりました。やはり、子どもの前に出ると学生たちの笑顔が輝き、いきいきと学ぶ姿が多く見られます。保育者の対応を現場で直接見聞きして気づかされたり、授業で学んだ保育理論を実感したりできる場面も多いようです。実習だけでなく、課題研究や教職実践演習の授業も活用して、学生ができるだけ園に出かけて多様な保育のあり方や子どもたちの生活に触れ、実践的な学びから保育者としての未来を思い描き、自ら知識・技能を高めていけるよう、今後も支援を続けていきます。

幼児教育科長 松本 純子



## 東京成徳大学中学・高等学校 中高一貫部



### ニュージーランド学期留学再始動

ニュージーランドが留学生の受け入れを再開し、本来は1月に渡航する予定を半年遅らせて、7月21日～10月1日の期間で、2年ぶりに学期留学を実施しました。1校につき2～3名のルールは変えることなく、北島の4つのエリア全32校での再スタートとなりました。久しぶりの留学生受け入れを、現地校もホストファミリーも、とても楽しみにしていただき、ニュージーランドらしいホスピタリティにあふれた、あたたかくおらかな受け入れは健在でした。現地校の授業では、生徒が自分の考えを述べ、ディスカッションするスタイルが多用されます。生徒たちにとっては、自ら発信する量が増えるほど、吸収する質も量も上がっていくことを実感できた3か月となりました。

国際交流部長 茂原 輝光

## 東京成徳大学高等学校 高等部

### 高等部文化祭

以下、生徒会長の間優楽々さんからのコメントです。  
 『今年の桐蔭祭のテーマは「おかえりな祭-The Return of Toinsai-」。  
 感染症の影響で3年ぶりの桐蔭祭でした。  
 クラス、有志ともに6月頃から準備が始まり、和気あいあいとした雰囲気  
 で迎えた当日。感染症対策で多少の制限はあるものの、多くの来場者  
 の方に楽しんでいただき、生徒も笑顔の絶えない2日間となりました。1  
 年生は初めてでしたが柔軟な発想で完成度が高く、2年生は去年の経験  
 を活かし修学旅行で行く予定の沖縄に絡めたよりよいものになり、3  
 年生は3年間の集大成で最高学年としてふさわしいとても素晴らしいもの  
 となりました。全学年、クラス内での団結力なども深まり、準備期間含  
 め充実したものでした。』

生徒指導部課長 倉橋 賢吉



東京成徳大学深谷中学・高等学校 中高一貫コース

中学生&高校中高一貫コース生修学旅行

10月28日(金)から11月1日(火)までの4泊5日、中学生と高校の中高一貫コース生が、広島・京都方面への修学旅行に行ってきました。本来ならば、中学校で海外(オーストラリア)、高校で国内(広島・京都方面)の修学旅行ですが、コロナ禍の影響を受けて、今年度は中高ともに国内(広島・京都方面)での修学旅行となりました。1日目は厳島神社を参拝。2日目は広島平和記念公園での平和学習と姫路城見学。3日目はタクシーを使っての京都班別自由行動。4日目は公共交通機関を使っての京都班別自由行動。5日目は北野天満宮への昇殿参拝と和菓子作り体験でした。多くの世界遺産に触れるとともに、平和の尊さと大切さを実感することができた有意義な修学旅行でした。



中学2-1担任 齋藤 祐希 / 高校2-H担任 福田 雅貴

東京成徳大学深谷高等学校



給食グランプリ

10月30日(日)に、地元青年会議所主催の「給食グランプリ」が催されました。このイベントは、市内の小中学生が「給食で食べたくなるメニュー」を考えようという趣旨によります。市内の飲食店23店舗とともに本校の調理部も参加しました。本校はまず調理部員からメニューを募り、検討し、最終的に「ネギチヂミ」と「かぼちゃプリン」を出品することに決めました。特に「かぼちゃプリン」は試作を重ね当日を迎えました。完成品は上々の出来栄で、準備した300個は、閉店時間を待たないうちに完売しました。お買い上げいただいた方から「お店で売っているものよりもおいしかったですよ。」などのうれしいコメントをたくさんいただきました。

調理部顧問 木内 友美・柳 直子

成徳幼稚園

芋掘り遠足(年長組)

10月4日さわやかな秋晴れのもと年長組が親子同伴でバスに乗って川越へ芋掘りに出かけました。

お世話になる坂本農園さんは幼稚園とは50年以上のお付き合いです。農園の方より芋掘りの手順を教わり、子どもたちは、シャベルを持って夢中でお芋を掘りました。今年は豊作で大きなお芋がたくさんとれました。子どもたちは、大きな歓声を上げて両手いっぱいのお芋に大喜びです。お昼は、農園の広場でお家の方と持参したお弁当を笑顔でおいしくいただきました。

当日は、収穫の喜びを味わいお芋のお土産もでき楽しい1日となりました。



教頭 梶山 久美子



中学校時代に水泳の才能が開花。  
オリンピックでの経験を活かし、  
スポーツを盛り上げたい。

一般社団法人スポーツを止めるな  
理事・1252プロジェクトリーダー

伊藤 華英さん  
I T O H A N A E

東京成徳大学中学校 2000年3月卒業  
東京成徳大学高等学校 2003年3月卒業

競泳（背泳ぎ・自由形）の日本代表選手として、2008年、2012年のオリンピックに出場。2012年10月に現役引退。引退後は、水泳とピラティスの素晴らしさを多くの人に伝えたいと活動。また大学院で、スポーツマネジメント・スポーツ心理学でメンタルヘルスを専攻し、その分野にも活動の幅を広げています。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では、広報を担当しました。

### 中学校で水泳部に入部。 そこから競技人生がスタート

水に入ったのはベビースイミングからです。スイミングスクールの選手コースに選ばれて所属していたのですが、小学校高学年で1度水泳はやめて、勉強にシフトしていたんです。東京成徳大学中学校に入学して室内プールのある環境で再び始めたら、泳ぐたびにタイムが更新されて、中2で全中に出場しました。中3でメドレーリレーの背泳ぎで優勝。日本選手権のタイムを切っていたこともあり、一躍注目されるようになりました。

高校で日本代表に入ってからは、練習、合宿、遠征と水泳一色になってしまい、ほとんど学校に行けなかったですね。だからこそ、中高一貫でよかったと思いました。中学時代からの友達や先生は久しぶりに会っても「元気？がんばってる？」と声をかけてくれたり、たわいもない話をしたり、すぐに学生気分に戻ることができました。

中学で水泳部に入部しなかったら、その後の競技人生も、今の私もなかったと考えると、とても貴重な学生生活でしたね。

### 2度のオリンピックを経て さまざまなスポーツプロジェクトに関わる

卒業後は、23歳で北京オリンピック、27歳でロンドンオリンピックという2度のオリンピックを経験。「やりきった！」と思うまで全身全霊を捧げ、引退の決断をした時はさすがすがすがしい気持ちでいっぱいでした。

引退後は、大学院でスポーツマネジメントやメンタルタフネスなどを専攻し、修士、博士を取得。コロナ禍でストップしてしまった学生スポーツを盛り上げようと、「一般社団法人スポーツを止めるな」の活動に参加し、女性アスリートの生理の課題について発言したことで注目を集め、「1252プロジェクト」を始動しました。

### 学生からアスリートまで知っておくべき 生理の知識を啓蒙する活動を実施

「1252プロジェクト」は、52週（1年間）のうち約12週は訪れる月経（生理）とそれに伴う体調の変化は、多くの女性アスリートにとって避けては通れないという現実をトップアスリートや最新の



## 東京成徳学園で学ぶ皆さんへメッセージ

実は学生時代、周囲に「才能がある」「オリンピック候補だ」と言われながらも、そこまで強い気持ちやモチベーションが持てずにいたんです。でも19歳の時アテネオリンピックに落選してからは、自分と代表選手との差がメンタルだと気づき、「オリンピックに出る!」という目標を明確にして、見事出場を果たすことができました。人に言われたからではなく、自分で考え、自分の意見を持って行動すること、自分の気持ちに向き合うことがいかに重要かということを実感しましたし、それは何より大切だと思います。だから皆さんも、勉強、スポーツ、自分の好きな分野…あらゆることに挑戦できる可能性を楽しみながらも、何をやりたいか、何が大事か、何が優先かという自分自身のプライオリティを明確にして行動してほしいなと思います。皆さんの活躍を心から応援しています!

情報量が多く、やりたいこと、やらなければいけないことが溢れている時代。不安になったり、焦るような気持ちが出てくることもあるでしょう。そんな時は、プライオリティ(優先順位)を決めて、一つひとつ解決していきましょう。かつ、そのプライオリティは自分で決めること。覚悟も生まれ、必ずゴールが見えてきますよ。



取材中、高3の時のクラス担任であった小田切先生がアルバムを持参して顔を出してくれました。懐かしい写真に話は盛り上がります。



医療・教育の専門家のもと、専門的知見をもって向き合い、共有・発信をしていく活動です。

私自身、北京オリンピックと生理が重なり、あわてて中容量ピルを飲んで周期のコントロールをしようとしたところ、体験したことがないほどバッドコンディションに陥った経験があります。ピルは自分に合うものを選択できれば、副作用で悩むことも少ないのですが、その知識もなかったんです。例えば現在は超低容量ピルや低容量ピルというピルも多くのアスリートが使用しています。アスリートや学生にも正しい生理の知識を知ってほしいと、YouTubeチャンネルのTalkup1252やInstagramの1252PlaybookなどのSNSのコンテンツで発信をする活動をしています。多くのメディアで取り上げていただいているほか、スポーツの力で世にポジティブなインパクトを与えたとして、スポーツ庁などが主催した「INNOVATION LEAGUE 2021 コンテスト」でソーシャル・インパクト賞を受賞、Forbes JAPAN「SPORTS INNOVATION PITCH2022」でパイオニア賞受賞、「2022年度グッドデザイン賞」受賞など、多くの評価をいただけてきました。

このような反応に驚くと同時に、生理の啓蒙の必要性を実感し、日本のスポーツを盛り上げる一助となる活動を続けていきたいと気が引き締まる思いです。また、スポーツ庁がSPORTS TECH TOKYOと共同で実施するスポーツオープンイノベーションプラットフォーム(SOIP)の構築の推進を目的としたプログラム「INNOVATION LEAGUE アクセラレーション2022」にて、1252プロジェクトが採択され、公益財団法人全日本柔道連盟とともにプログラム構築をしていくことになりました。



小田切先生に加え、中高の水泳部顧問であった小林先生も合流。1252プロジェクトのポスターを持って、3人で記念撮影をしました。

# CLUB ACTIVITIES REPORT

## クラブ活動報告

2022年7月～(大学:11月初まで/中高:9月まで)

**全国** 全国大会進出

**関東** 関東大会進出

### ● 東京成徳大学

#### 男子バスケットボール部 BASKETBALL

第98回関東大学バスケットボールリーグ戦 2部  
10位(7勝15敗)  
[2・3部入替戦へ]

#### 女子バスケットボール部 BASKETBALL

第72回関東大学女子バスケットボールリーグ戦 3部  
14位(Aブロック7位 0勝6敗、  
順位決定戦 1勝3敗)  
[3・4部入替戦へ]

#### ダンス部 DANCE

第34回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)  
コンクール部門・参加発表部門 2部門出場

大学ダンス部



大学  
女子バスケットボール部



大学男子バスケットボール部

### ● 東京成徳大学高等学校 (都ベスト16以上)

#### 硬式野球部 BASEBALL

第104回 全国高等学校野球選手権 東・東京大会 ベスト16

#### 水泳部 SWIMMING

令和4年度 関東高等学校選手権 水泳競技大会  
男子 1500m自由形 9位(高2) **全国**  
400m自由形 出場(高2)

令和4年度 全国高等学校総合体育大会 水泳競技大会  
男子 1500m自由形 出場(高2)

令和4年度 東京都高等学校新人水泳競技大会  
男子 50mバタフライ 4位(高2)  
100m平泳ぎ 9位(高1)、13位(高1)  
100m背泳ぎ 11位(高1)  
100m自由形 9位(高2)  
400m自由形 4位(高2)  
200m個人メドレー 10位(高2)  
4x50mメドレーリレー 4位(高2-2名、高1-2名)  
4x100mフリーリレー 7位(高2-4名)  
学校対抗 4位  
女子 50mバタフライ 12位(高1)  
100m背泳ぎ 12位(高1)

#### 卓球部 TABLE TENNIS

令和4年度 東京都高等学校新人卓球大会  
男子学校対抗 ベスト8

#### 陸上競技部 ATHLETICS

第74回 東京都高等学校新人陸上競技対校選手権大会  
男子 砲丸投げ 5位(高2) **関東**  
ハンマー投げ 8位(高2)  
円盤投げ 11位(高2)  
三段跳 13位(高2)  
4x100mリレー 4位(高2-3名、高1-1名)  
女子 ハンマー投げ 3位(高2) **関東**  
円盤投げ 8位(高2)

#### 女子バレーボール部 VOLLEYBALL

令和4年度 東京都夏季大会 優勝



高校硬式野球部



高校陸上競技部



中学女子バスケットボール部



深谷高校弓道部



高校書道部

バトントワリング部 BATON TWIRLING

2022 Japan Cup マーチングバンドバトントワリング全国大会

高等学校バトントワリング部門 3位

第42回 バトントワリング東京都大会

コンテストの部 学校部門 高等学校の部 バトン編成 金賞

関東

第57回 バトントワリング関東大会

コンテストの部 学校部門 高等学校の部 バトン編成 金賞

全国

千葉県知事賞受賞

ラクロス部(中高女子ラクロス) LACROSSE

第20回 中高女子ラクロス秋季関東大会

予選ブロック 1位  
[決勝トーナメント進出]

弓道部 KYUDO

令和4年度 東京都個人選手権大会

女子個人 9位(高2)

関東

第41回 関東高等学校弓道個人選手権選抜大会

女子個人 出場(高2)

書道部 SYODO

第56回 高野山競書大会

金剛峯寺賞(高3)

南山賞(高3)

高野山書道協会賞(高3)

推薦(高3-1名、高2-1名)

特選 7名・準特選 9名・金賞 5名・銀賞 6名・銅賞 4名

第73回 毎日書道展

かなI類 入選(高3-2名)

かなII類 U23激励賞(高3)

入選(高3-1名、高2-2名)

その他 OTHERS

SAGE World Cup2022(世界大会) SDGs賞 3項目受賞

(高1 中高一貫部ゼミ:5名 チーム「結」)

● 東京成徳大学深谷高等学校 (県ベスト16以上)

弓道部 KYUDO

令和4年度 全国高等学校総合体育大会弓道競技大会

女子個人 出場(高3)

第41回 関東高等学校弓道個人選手権選抜大会埼玉県予選

女子の部 7位(高3)

関東

10位(高3)

関東

パワーリフティング部 POWER LIFTING

第40回 全日本高等学校パワーリフティング選手権大会

男子 83kg級 優勝(高3)

女子 47kg級 優勝(高2)、3位(高2)

63kg級 優勝(高2)

団体 3位

● 東京成徳大学中学校 (都ベスト16以上)

女子バスケットボール部 BASKETBALL

第61回 東京都中学校総合体育大会 3位

関東

第52回 関東中学校バスケットボール大会 出場

令和4年度 東京都U15バスケットボール選手権大会 ベスト8

第3回 全国U15バスケットボール選手権大会東京都予選

ラクロス部(中高女子ラクロス) LACROSSE

(東京成徳大学高等学校のラクロス部参照)

● 東京成徳大学深谷中学校 (県ベスト16以上)

弓道部 KYUDO

第35回 埼玉県民スポーツ大会【弓道競技:中学の部】

女子個人 準優勝(中3)

## 2022年、学園祭は各校大いに盛り上がりました。

### 第56回 桐友祭 — Next step —

東京成徳大学  
東京成徳短期大学

新型コロナウイルスの感染拡大がまだ収束せず、withコロナの世の中へと進んでいく中で、学生たちは桐友祭の開催に向け、「前年、先輩方が作りあげた土台を活かし、新しい1歩を踏み出す!」という強い意志を、今年度の学園祭のテーマ「Next step」に込めて取り組んできました。

今年度は、3年ぶりに一般の方も入場ができ、ハロウィン仮装で来場した子どもたちが学生手作りのフォトスポットで撮影したり、家族で緑日や謎解き、展示を楽しんだり、キャンパスはとても活気にあふれていました。

3号館の楷の木ホールでは、2日間にわたり、多くのステージショーが行われました。歌やダンス、マジックショーのほか、在学生と卒業生、教員による演奏会、グローバルスピーチコンテストなど、多種多様なプログラムが実施され、観客席までも大変に盛り上がっていました。

展示や装飾、ステージショーなどそれぞれに、学生たちの桐友祭開催に向けた準備や練習した成果をはっきりと見ることができました。

【開催日：10/29(土)・30(日)】

- 1 入場時、感染対策をお願いしながら、笑顔でお出迎え
- 2 ボランティア部のパネルシアターに子どもたちも大喜び!
- 3 大人数でのダンスパフォーマンスに会場は魅了されました



#### 東京成徳大学高等学校 (高等部)

### 桐蔭祭 おかえりな祭 -The Return of Toinsai-

一昨年、昨年は、コロナ禍で多くの行事が中止、縮小を余儀なくされました。今年の桐蔭祭は、在校生家族や中学生とその家族に来場を限定するなど制約もありましたが、やっと多くの方にご来場いただく開催ができました。伝統を取り戻し、さらには過去を超えるものにとしようと、生徒たちの3年間の思いの詰まった文化祭となりました。

【開催日：9/24(土)・25(日)】



#### 東京成徳大学中学・高等学校 (中高一貫部)

### 令和4年度 桐蔭祭

昨年の文化祭は、オンライン配信のため動画制作が中心でしたが、今年は来場者を入れた開催となり、生徒たちも張り切って準備に取り組んできました。ただ、中学生は皆「桐蔭祭」は未経験。また高1生の半数以上が留学中で、不安も多くありましたが、サポーターとして受験生の高3生も参加してくれたため、盛況のうちに終えることができました。

【開催日：9/24(土)・25(日)】

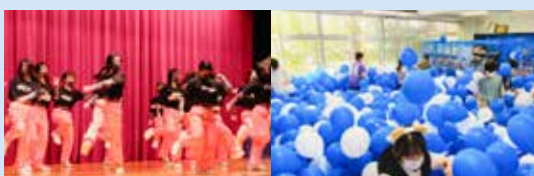


#### 東京成徳大学深谷高等学校

### 第58回桐蔭祭 止めるな青春!! ~二度と戻らないこの瞬間~

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、来場者に事前登録を必須とするなど予防対策を講じながら、3年ぶりに一般公開をした桐蔭祭でした。文化部や各クラスの展示・イベント、有志発表などで大変に盛り上がり、家族や友人、来場の中学生など、皆さまに生徒一人ひとりのがんばる姿をご覧いただくことができた、とても良い桐蔭祭となりました。

【開催日：9/10(土)・11(日)】



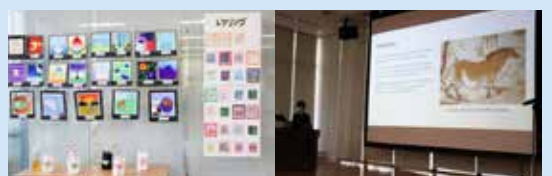
#### 東京成徳大学深谷中学校

### 第10回中学校桐蔭祭

今年は中学1年生が「自分の興味があること」をテーマに、各自で学習内容を決め、パワーポイントを利用したプレゼン形式の発表を行いました。

初めてプレゼンを行う生徒もいて、緊張する様子は見ている側にも伝わってきましたが、生徒たちはみんな、堂々とプレゼンすることができました。

【開催日：11/19(土)】



# Student's Voice 今を輝く、東京成徳の学生たちの声をお届けします。

## 内定者 Voice



ゼミでのグループディスカッション

**やりたいと思ったことに積極的にチャレンジ。  
これからは、自分を育ててくれた地域社会に  
恩返しをしたい。**

私は「自分が地域社会の中であたたかく育ててもらったため、今度はそういったあたたかい環境を作る側に回りたい」という思いから、信用金庫で働くことを決めました。相談に乗っていただいたゼミの担当教員の布川先生、キャリア支援課の相蘇さん、またゼミの時間で行っていたグループディスカッションの練習のおかげだと感謝しています。

学生時代は、オンラインの対人ゲームに夢中でしたが、そこでコミュニケーションや物事の上達の仕方が学べたと思っています。将来は、まずは自立し心とお金に余裕を持たせつつ、やりたいと思ったことは何でも積極的にチャレンジしていきたいです。



坂口 裕希さん

東京成徳大学  
経営学部 経営学科4年

内定先:東京東信用金庫



鈴木 理央さん

東京成徳大学  
国際学部 国際学科4年

内定先:サムスン電子ジャパン株式会社

**韓国と日本の架け橋になりたいという夢が実現。  
日韓友好のきっかけになりたい。**

小学生の頃から韓国に大変興味があり、将来はどのような形でもよいから韓国と日本の架け橋になりたいと考えていました。その思いは強く、韓国の大手エンターテインメント企業でのアルバイトでは韓国語を使う機会も増え、とても有意義な社会勉強をさせていただきながら、大学では韓国語の担当教員の方々に自分自身の就活の近況の相談や、韓国系企業の状況などをお聞きし、自分自身で何がしたいのか考え自己分析に取り組みました。



韓国慶熙(キョンヒ)大学の修了証

## 課外活動 Voice



「成徳ロマンス」の  
メンバー3人でのステージ

**アイドルとして、充実した毎日!  
将来は、両親がいない子どもたちに  
明るく楽しい時間を提供したい。**

私の所属しているアイドル研究会は「普通の女子大生が、一夜限りの"アイドル"としてステージに立つ」というコンセプトの、アイドルコピーダンスサークルです。「UNIDOL」という大学対抗の女子大生アイドル日本一決定戦を決める大会や、定期的なイベント、学園祭などに出演しています。現在アイドル研究会は、2年生3人で活動を行っています。練習を経てメンバーの絆が深まり、現在も楽しく活動をしています。私の将来の目標は、虐待を受けてつらい思いをしている子どもや、お母さんやお父さんがいなくて困っている子どもたちがつらい思いを今よりもせず、楽しいと思ってもらえるようにしていくことです。



藤井 璃音さん

東京成徳大学  
子ども学部 子ども学科2年  
サークル名:アイドル研究会

## 成徳幼稚園が「第16回キッズデザイン賞」を受賞しました

成徳幼稚園ではよりよい園環境の実現に向けて、3つのコンセプト【①学び・遊びの風景がつながる空間、②健康的な保育環境、③園児の感性を育む内装計画】をもとにした新園舎が2022年1月に完成しました。この新園舎建築の設計、デザインが、第16回キッズデザイン賞における「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門」で評価され、このたびの受賞となりました。

今回の受賞を通じて、成徳幼稚園がこれまで以上に地域の皆さまから愛され、親しまれる幼稚園となること、また学校法人東京成徳学園の認知度がより一層広がることを目指します。そして、キッズデザインの目指す社会作りに貢献できるよう努めてまいります。



### 受賞内容

- <受賞作品名> 成徳幼稚園
- <受賞部門> 子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門
- <設計・施工> 設計・監理:株式会社三菱地所設計  
施工:株式会社フジタ

### キッズデザイン賞とは

キッズデザイン賞は、「子どもたちが安全に暮らす」「子どもたちが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」という目的を満たす、製品・サービス・空間・活動・研究の中から優れた作品を選び、広く社会に発信していくことを目的に2007年に創設されました。子ども用にデザインされたものはもちろん、大人・一般向けに開発されたものでも、子どもや子育てに配慮されたデザインであればすべてが対象です。  
※キッズデザイン賞ホームページ <https://kidsdesignaward.jp/>

## 東京成徳短期大学が、東京消防庁より感謝状をいただきました



9月9日の救急の日にあたり、幼児教育科の授業内で長年にわたり取り組んできた「普通救命講習」に対して、東京消防庁王子消防署より「救急行政に関心と理解を示し、その推進と積極的な協力により、救急業務の充実発展に貢献した」として感謝状をいただきました。9月7日に、表彰者として王子消防署長 椎谷敦様が来学され、本学は木内短期大学長が代表として表彰を受けました。

例年、幼児教育科では1年生を対象に、前期講義「幼児教育基礎演習」内で、保育者として必要な救命に関する基礎的知識と技術の習得を図ることを目的に、東京消防庁王子消防署に協力を依頼し、普通救命講習を行っています。今回の感謝状授与は、継続して全学生に救急救命講習を促すとともに、消防署員に指導を受けながら防火災害訓練を行ってきたことをご評価いただいたものと思われまます。

今後とも、東京成徳短期大学では、保育者を目指す学生たちが救命に関する知識・技能を習得できるように、地域の関係機関と連携しご助力いただきながら、こうした取り組みを続けてまいります。

## 学園人事

2022年(令和4年)7月～10月

退職	STEELE JUSTIN THOMAS 中山 友恵 青木 一夫	東京成徳大学中学・高等学校 東京成徳大学中学・高等学校 東京成徳大学深谷高等学校
採用	大嶋 弘恵 ELLETT DECLAN AIDEN GORDON ANDREW DAVID 吉田 倫菜 柳生 常弘 柳生 順子 吉村 善也	東京成徳大学 東京成徳大学中学・高等学校 東京成徳大学中学・高等学校 東京成徳大学中学・高等学校 東京成徳大学中学・高等学校 東京成徳大学中学・高等学校 東京成徳大学深谷高等学校
異動	MOSLER TALIESIN THOMAS	東京成徳大学中学・高等学校

※( )は前任

JET・ALT 労務職員 事務長
企画・IR室 JET・ALT JET・ALT 事務部 労務職員 労務職員 事務長
専任講師 (JET・ALT)

### 表紙について

教育支援ボランティアによる地域貢献を目指して

秋が深まり木々も色付くキャンパスで、特集に登場する学生の皆さんと行った表紙撮影は、終始笑顔あふれるとても良い撮影となりました。座談会では、ボランティア経験を将来に活かそうと、前向きで誠実な姿が見られました。こちらの座談会の様子も、ぜひご覧ください。



100th anniversary

2026

TOKYO SEITOKU GAKUEN

TOKYO SEITOKU UNIVERSITY  
東京成徳大学

私たちは約束します。

ブランド・ステートメント

多様性の中で共生し、  
新たな自分を発見するとともに、  
自らの信念をもって  
未来をデザインする人材を育成します。



TOKYO SEITOKU

グローバル化が加速する現代社会では、人種や国籍、  
宗教、性別、価値観などの多様性を受け入れ、必要な  
助け合いをしながら生きていく共生を、学問や経験を通  
じて学ぶことが大切です。

この学びや経験を通じて、これまでの殻を打ち破る新しい  
自分の使命や役割を探り当て、確固たる自分自身の  
信念のもと、自分の未来、自分たちの社会の未来を描  
き、切り拓いていく人材を、東京成徳では育成します。

1993

TOKYO SEITOKU UNIVERSITY

東京成徳大学開学式

1965

TOKYO SEITOKU COLLEGE

Foundation

1926

TOKYO SEITOKU GAKUEN

## HISTORY

1926年 東京成徳学園の前身である王子高等女学校を創立

1947年 学制改革により東京成徳中学校(現東京成徳大学中学校)開校

1948年 東京成徳高等学校(現東京成徳大学高等学校)開校

1953年 東京成徳幼稚園(現成徳幼稚園)開園

1963年 東京成徳学園深谷高等学校(現東京成徳大学深谷高等学校)開校

1965年 東京成徳短期大学開学

1976年 東京成徳短期大学附属第二幼稚園開園

1993年 東京成徳大学開学

人文学部を設置

1998年 東京成徳大学大学院開設

2004年 東京成徳大学に子ども学部を設置

2008年 東京成徳大学に応用心理学部を設置

2009年 東京成徳大学に経営学部を設置

2013年 東京成徳大学深谷中学校開校

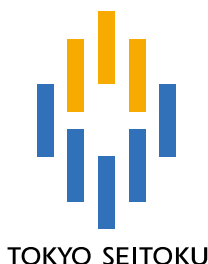
2015年 「東京成徳ビジョン100」策定・公表

2019年 東京成徳大学に国際学部を設置

2026年 東京成徳学園創立100周年

編集  
後記

東京成徳広報は今号より「東京成徳学園の今」をお届けするというコンセプトのもと、これまで親しまれたデザインを一新し、リニューアルしました。2026年の学園創立100周年まであと3年。本学園に関わる皆さまと「東京成徳ファミリー」を築き、ともに新たな101年目を迎えられるよう、東京成徳の今をお伝えしてまいります。(龍野)



TOKYO SEITOKU

## 学校法人 東京成徳学園

www.tokyoseitoku.ac.jp

- 東京成徳大学
- 東京成徳大学大学院
- 東京成徳短期大学

東京キャンパス(十条) 東京都北区十条台1-7-13

TEL 03-3908-4530 URL www.tsu.ac.jp

- 東京成徳大学中学・高等学校

中高一貫部 東京都北区豊島8-26-9

TEL 03-3911-2786 URL www.tokyoseitoku.jp/js/

高等部 東京都北区王子6-7-14

TEL 03-3911-5196 URL www.tokyoseitoku.jp/hs/

- 東京成徳大学深谷中学・高等学校

埼玉県深谷市宿根559

TEL (中学) 048-573-1784 URL (中学) www.tsfj.jp/top

(高校) 048-571-1303 (高校) www.tsfh.jp

- 成徳幼稚園

東京都北区豊島8-24-2

TEL 03-3911-6337 URL www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind/

- 東京成徳スイミングスクール

東京都北区王子6-7-14

TEL 03-3914-2383

### 東京成徳学園後援会のご案内

東京成徳学園の使命達成のため、オール東京成徳で尽力しようと幼稚園から大学院まで学園全体の後援組織として、ご賛同いただく会員を募り組織した後援会です。趣旨をご理解いただき、ぜひご参加ください。

#### 東京成徳学園後援会 目的および事業 (東京成徳学園後援会会則より)

本会は会員相互の親睦を図り、併せて学園の発展に寄与することを目的とし、次の事業を立案実施する。

1. 学園行事への参加協力。
2. 在学生の研究活動、部活動の助成。
3. 卒業生進路への協力。
4. 会員の親睦会、研修会の開催。

#### 入会に関するお問い合わせ

TEL 03-3911-5196 担当 大橋、遠藤 (事務)

### 読者アンケートのお願い

学園広報誌「東京成徳広報」をご覧いただき、誠にありがとうございます。今後の発行に向け、よりよい紙面作りをするために、皆さまの感想をぜひお聞かせください。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

※お寄せいただいた個人情報は、今後の広報誌作成の参考に利用するものであり、それ以外の目的で使用するものではありません。



QRコードからご回答いただけます。

